

ヘルパンギーナ

●ヘルパンギーナとはどんな病気？

- ✓ 発熱と、口の中に水疱性の発疹があらわれるウイルス性の感染症です。
- ✓ 例年、7月頃にかけてピークがみられ、夏かぜの代表的疾患といわれています。
- ✓ 患者の年齢は、5歳以下がほとんどで、1歳代が最も多くみられます。
- ✓ 病気の原因となるウイルスは、エンテロウイルス属、主にコクサッキーウイルス A 群の感染が多くみられます。
- ✓ 感染症法では定点把握対象の5類感染症に分類され、一部の小児科医療機関が届出基準に基づいて診断した場合、保健所に届出がされることになっています。

●どんな症状があるの？

- ✓ 感染してから2～4日後に、突然の発熱に続いて咽頭粘膜の発赤が顕著となり、口の中に直径1～2mm、大きいものは5mmくらいの小水疱ができます。やがて小水疱は破れ、浅い潰瘍になり、痛みを伴います。発熱は、2～4日間程度で解熱し、ほとんどの患者は予後が良好です。
- ✓ 咽頭と口の中の潰瘍による痛みで、十分な水分や食事を摂ることができず脱水症状に陥ることがあります。特に水分保持能力の低い乳幼児は注意が必要です。
- ✓ まれに髄膜炎、急性心筋炎などを合併することがあり、経過観察を行い、頭痛、嘔吐、心不全徴候等の出現に注意をする必要があります。

●どうやって感染するの？

- ✓ 感染経路は、飛沫感染（患者の唾液や鼻汁がくしゃみやせきで飛び散ることや、吸い込むことで感染）、接触感染（患者の手やさわったものを介して、口に入れたり鼻をさわったりすることで感染）、糞口感染（便の中に排泄されたウイルスが口に入ることで感染）があります。

●治療方法と予防策は？

- ✓ ヘルパンギーナは特別な治療方法はありません。経過観察を含め、症状に応じた治療となります。まれに合併症などが起こることから、経過観察をしっかりと行う必要があります。
- ✓ ヘルパンギーナに対する予防接種はありません。快復した後でも、2～4週間の長期にわたり、ウイルスが便の中に排出されることがあるので、感染を予防するために手洗いをしっかりとし、排泄物を適切に処理しましょう。また、タオルの共用をしないようにしましょう。
- ✓ 感染者との密な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を励行して予防しましょう。